

2019年3月期 第1四半期決算説明会

2018年7月31日

株式会社SCREENホールディングス
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者 (CEO)

垣内 永次

資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切り捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。
- ・本資料では、例えば、「FY2019」と示す場合、2018年4月1日～2019年3月31日の会計期間を表します。

本日のポイント

- ✓ 通期、過去最高の売上、営業利益の達成に向け、想定どおり進捗
- ✓ SE、上期予想を上方修正

アジェンダ



1. FY2019 1Q 連結業績
2. FY2019 1Q セグメント別業績概況
3. 財務状況
4. FY2019 業績予想
5. 最近の取り組み

FY2019 1Q 連結業績 (前年同期比)

(億円)	FY2018					FY2019		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	前年同期比	
売上高	729	808	703	1,152	3,393	725	▲4	▲0.6%
営業利益	73	95	68	189	427	51	▲22	▲30.9%
営業利益率	10.1%	11.8%	9.8%	16.4%	12.6%	7.0%	—	▲3.1pt
経常利益	75	89	65	183	413	51	▲24	▲32.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	51	55	43	134	285	35	▲15	▲30.7%

●FY2019 1Q (2018年4月-6月) は、前年同期比、減収減益でした。

売上微減に対して、営業利益が大きく減収したのは、通期での増収計画に見合った人員増のための固定費（特にSEの海外）が、売上が少なかった1Qでは吸収できなかったためです。数値的にはほぼ想定どおりでした

FY2019 1Q 連結業績

(億円)	FY2018					FY2019		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	前年同期比	
売上高	729	808	703	1,152	3,393	725	▲4	▲0.6%
SE	465	532	455	818	2,271	471	5	1.2%
GA	108	139	118	168	534	114	6	5.7%
FT	129	99	91	132	452	103	▲25	▲19.7%
PE	23	33	34	29	121	32	8	36.0%
その他および調整	2	3	4	3	13	2	0	30.6%
営業利益	73	95	68	189	427	51	▲22	▲30.9%
営業利益率	10.1%	11.8%	9.8%	16.4%	12.6%	7.0%	—	▲3.1pt
SE	64	81	56	160	363	37	▲26	▲41.4%
GA	1	10	3	14	30	2	1	25.8%
FT	11	7	4	22	45	9	▲2	▲20.7%
PE	0	3	6	▲0	10	5	4	7.2倍
その他および調整	▲4	▲7	▲2	▲8	▲22	▲3	1	—
経常利益	75	89	65	183	413	51	▲24	▲32.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	51	55	43	134	285	35	▲15	▲30.7%

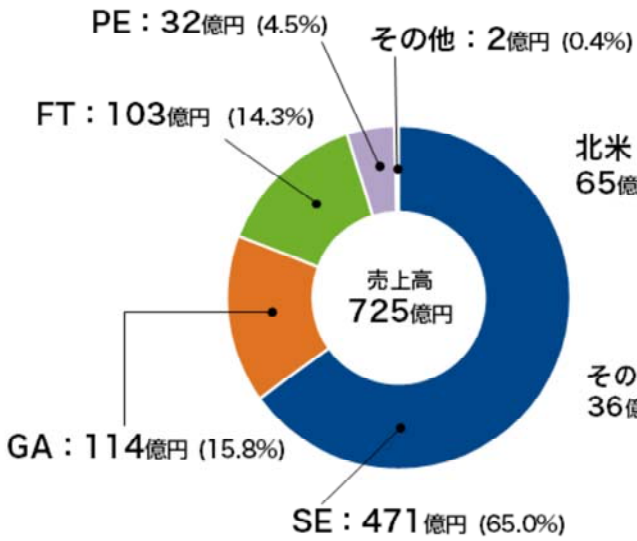
SE：半導体製造装置事業

GA：グラフィックアーツ機器事業

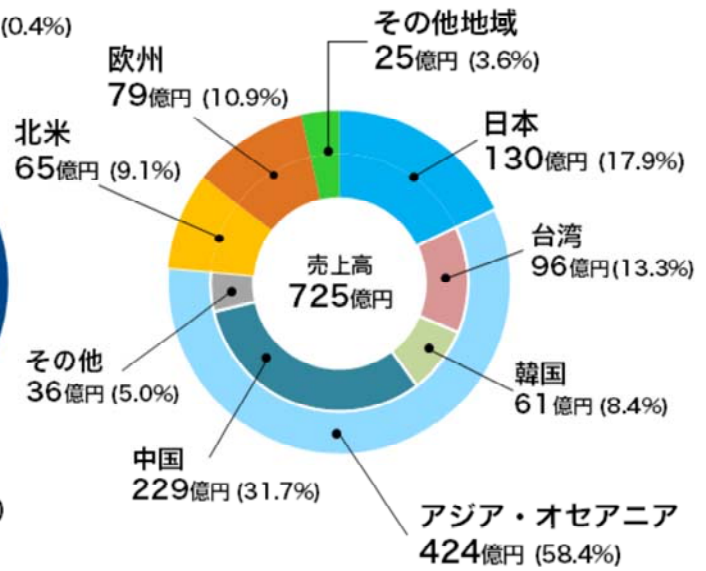
FT：ディスプレイ製造装置および成膜装置事業

PE：プリント基板関連機器事業

■セグメント別売上高

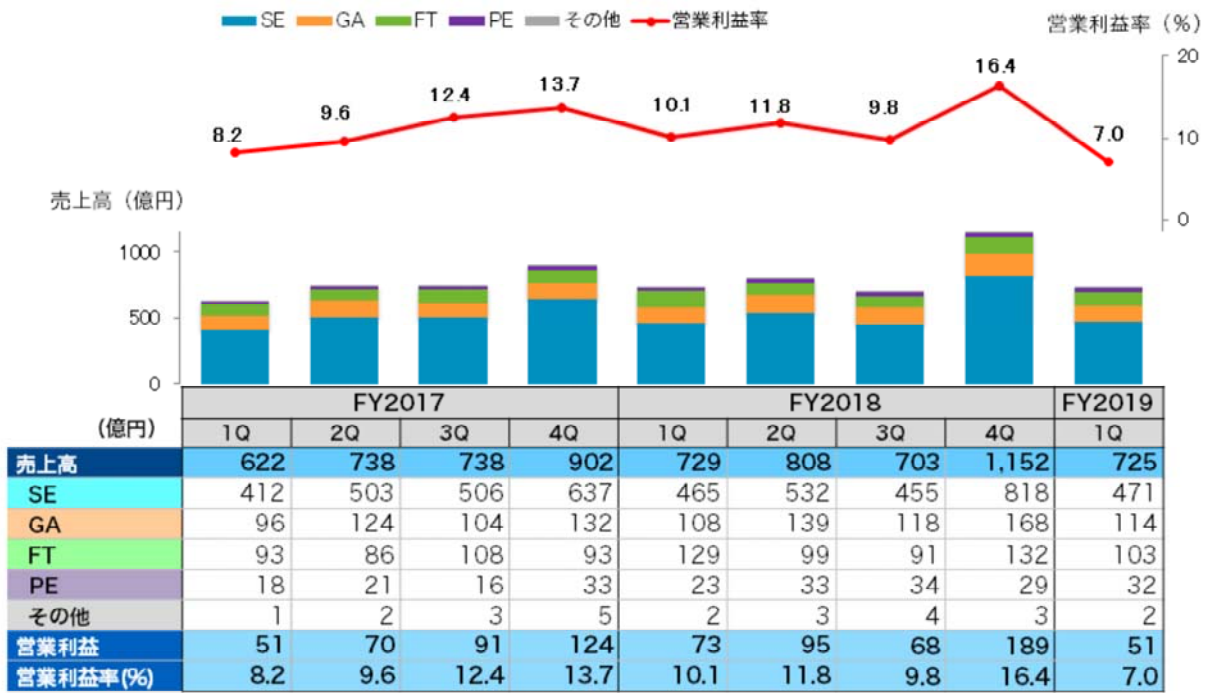


■地域別売上高



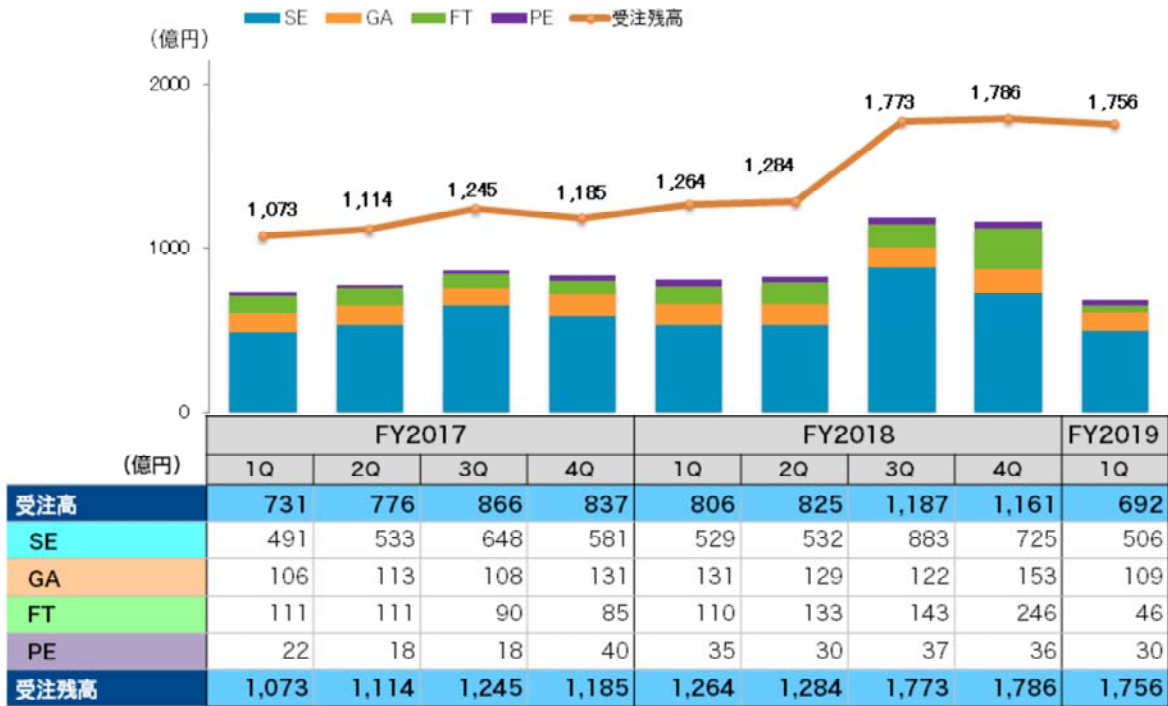
●グループの連結売上の海外比率は、82.1%でした

連結売上高/営業利益の四半期推移



●各事業とも想定どおり（2Q偏重）の滑り出しでした

連結受注高/受注残高の四半期推移



●1Q受注高

全社：692億円

SE：506億円

8四半期連続、500億円超え（高原状態）、今後も継続すると予想しています
2Qに向かっては増加を見込み、1Qがボトムであろうと想定しています

FT：46億円

2Qに向かっては大幅増加、100億円以上を見込んでいます

セグメント別業績概況<SEセグメント>

前年同期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	1Q	1Q		
売上高	465	471	5	1.2%
営業利益 営業利益率	64 13.8%	37 8.0%	▲26 ▲5.8pt	▲41.4%

前四半期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	4Q	1Q		
売上高	818	471	▲346	▲42.4%
営業利益 営業利益率	160 19.6%	37 8.0%	▲123 ▲11.7pt	▲76.7%

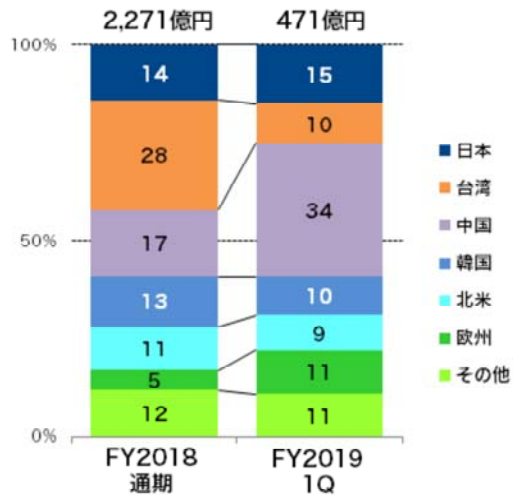
概況

- ・前年同期比、メモリー向けが増加し、ロジック向けも堅調に推移。ファウンドリー向けの売上は減少
- ・今後も引き続き、DRAMを中心にメモリーの投資が牽引し、ロジックの伸長やファウンドリーの回復を予想

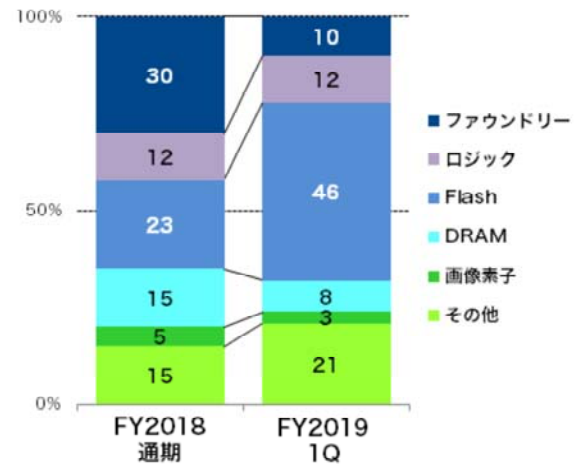
SE市場見通しと取り組み

- ✓ **CY2018のWFE市場成長の見方に変更なし（\$50B以上）**
- ✓ **メモリー：順調に成長へ向けた投資を継続**
→引き続きSU-3300の参入領域を拡大
- ✓ **ファウンドリー/ロジック：微細化投資は計画どおり進捗**
→最先端プロセスにおけるレーザーアニール(LT-3100)の評価進行
- ✓ **中国市場：新興ローカル顧客の Phase1 は一巡するも、既存ローカル、外資の投資は底堅い**
→Phase2の投資も含めた需要増に備え、サポート体制強化を継続
- ✓ **IoT関連の投資が活発化**
→MEMS、各種センサー他、SiCベースのパワー半導体投資も活況。
200mmの洗浄、塗布・現像装置他、レーザーアニールも拡販

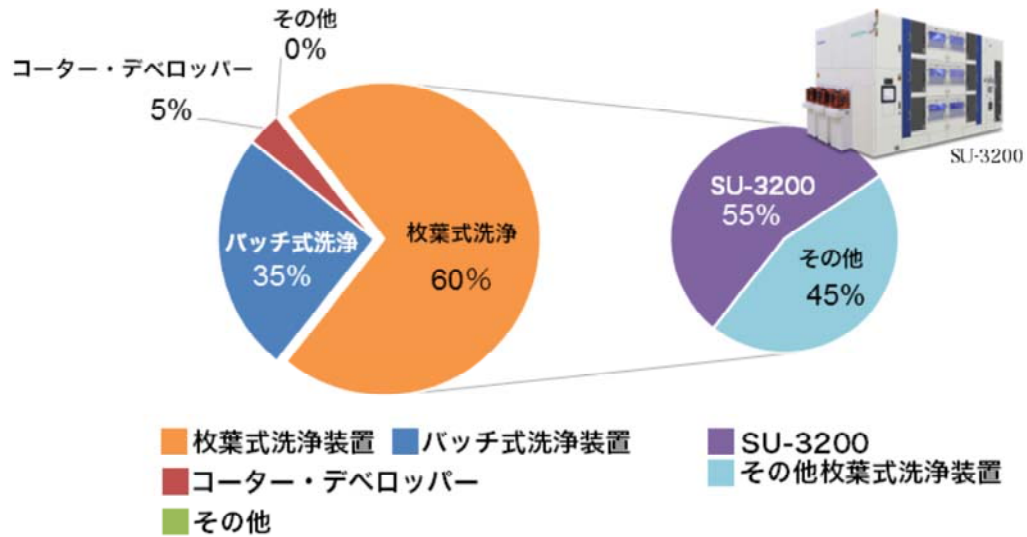
■ 連結・地域別・売上高比率



■ 単独・アプリケーション(デバイス)別・売上高比率



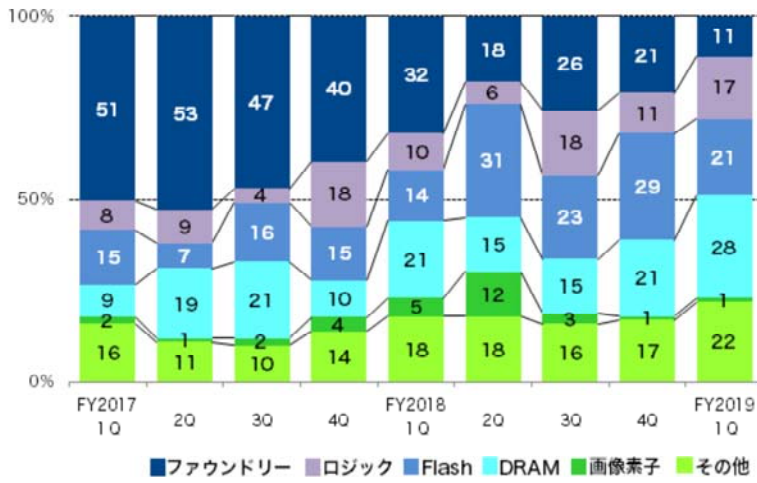
■ 単独・製品別売上高比率 (FY2019 1Q)



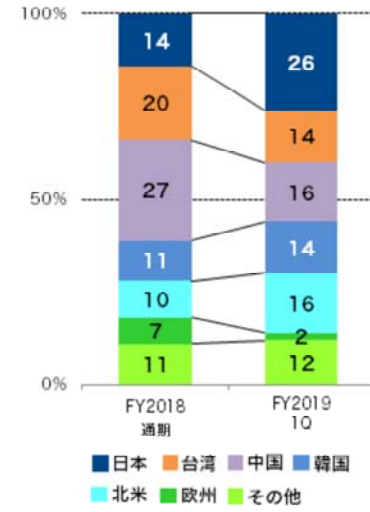
※上記比率は、5%刻みの「約」表記

単独・受注高比率 <SEセグメント>

■アプリケーション（デバイス）別・四半期推移



■地域別



- ・メモリーが牽引、ロジックも堅調。前期3Q、4Q比では減少するも、506億円を受注
- ・今後もメモリー(DRAM/NAND)が中心。ロジックの伸長やファウンドリーの回復を予想

●1Q受注高：506億円

→500億円台を維持(高原状態を継続)しました

セグメント別業績概況 <GAセグメント>

前年同期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	1Q	1Q		
売上高	108	114	6	5.7%
営業利益 営業利益率	1 1.7%	2 2.0%	1 0.3pt	25.8%

前四半期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	4Q	1Q		
売上高	168	114	▲53	▲31.8%
営業利益 営業利益率	14 8.4%	2 2.0%	▲11 ▲6.4pt	▲83.8%

概況

- ・前年同期比、PODの海外売上、および、インク売上などが寄与して増収増益
- ・今後も、インクを中心とするポストセールス拡大を図り、収益改善を目指す

- ラインアップを拡充したPOD（TPJ520シリーズ、UVラベルなど）が、売上、台数ともに増加したことに加え、インク（DRUPA2016でリリースしたSCインク）を中心にポストセールスも伸長したことが寄与しました

セグメント別業績概況 <FTセグメント>

前年同期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	1Q	1Q		
売上高	129	103	▲25	▲19.7%
営業利益 営業利益率	11 8.9%	9 8.7%	▲2 ▲0.1pt	▲20.7%

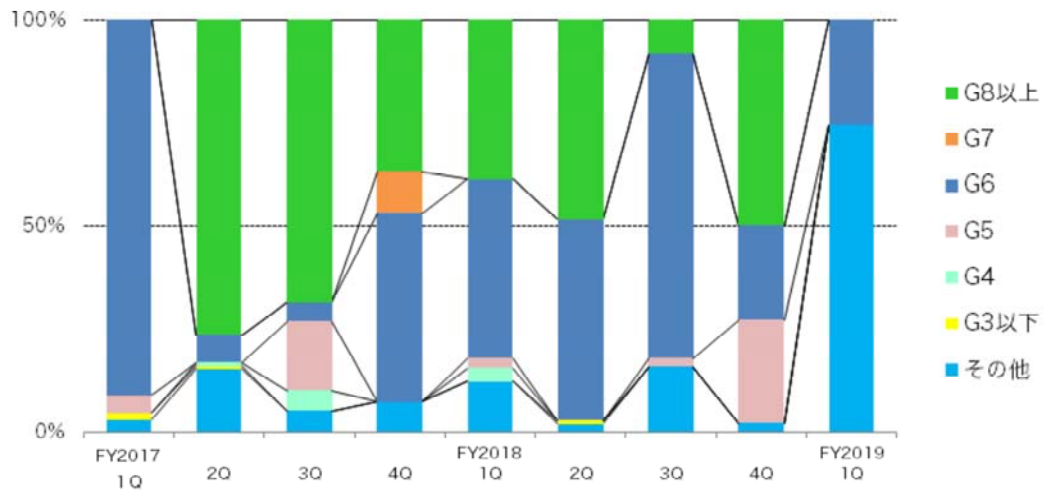
前四半期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	4Q	1Q		
売上高	132	103	▲28	▲21.8%
営業利益 営業利益率	22 17.1%	9 8.7%	▲13 ▲8.4pt	▲60.1%

概況

- ・大型用の売上は前年同期並みだったものの、中小型用が減少して減収減益
- ・今後も、LiB関連を中心に、新規事業（成膜事業関連）の売上・利益拡大を目指す

- 今後も、LiB関連を中心とした新規事業（成膜事業関連）の売上と利益を拡大しつつ、事業ポートフォリオ変革を目指しています

単独・製品サイズ別受注高比率・四半期推移 <FTセグメント>



- ・ 1Qの連結・受注高（46億円）は、新規事業が中心
- ・ 2Qの受注高は、G10.5用や新規事業などにより増加を見込む

セグメント別業績概況 <PEセグメント>

前年同期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	1Q	1Q		
売上高	23	32	8	36.0%
営業利益 営業利益率	0 3.1%	5 16.3%	4 13.2pt	7.2倍

前四半期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	4Q	1Q		
売上高	29	32	3	10.2%
営業利益 営業利益率	▲0 ▲0.1%	5 16.3%	5 16.4pt	—

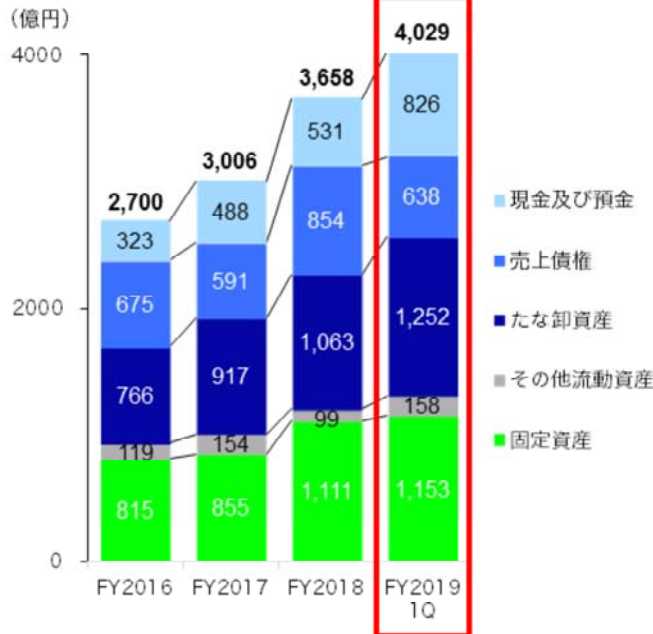
概況

- ・前年同期比、台湾向けを中心に直接描画装置の売上好調により増収増益
- ・今後も中国・台湾向けを中心に、直接描画装置にて堅調な売上を見込む

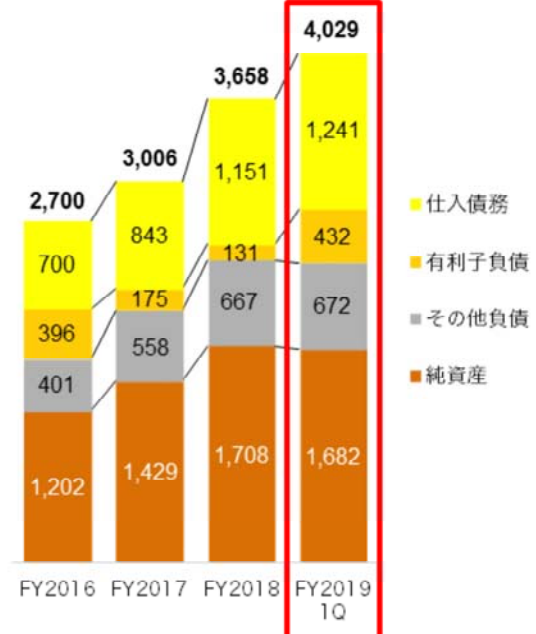
●今後も牽引役は、高機能スマートフォン（需要）だと予想しています

連結貸借対照表

資産



負債および純資産



自己資本比率 46.7% (FY2018 4Q) → 41.8% (FY2019 1Q)

※「「税効果会計に係る会計基準」の一部改正」等を当第1四半期連結会計期間(FY2019 1Q)の期首から適用しており、前連結会計年度(FY2018)の実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しています。

前期末（2018年3月末）との比較

●総資産は、4,029億円となり、前期末から370億円増加（+10.1%）しました

●資産の部の増加理由

売上債権が減少した一方で、転換社債型新株予約権付社債の発行に伴う現預金の増加や、たな卸資産が増加しました

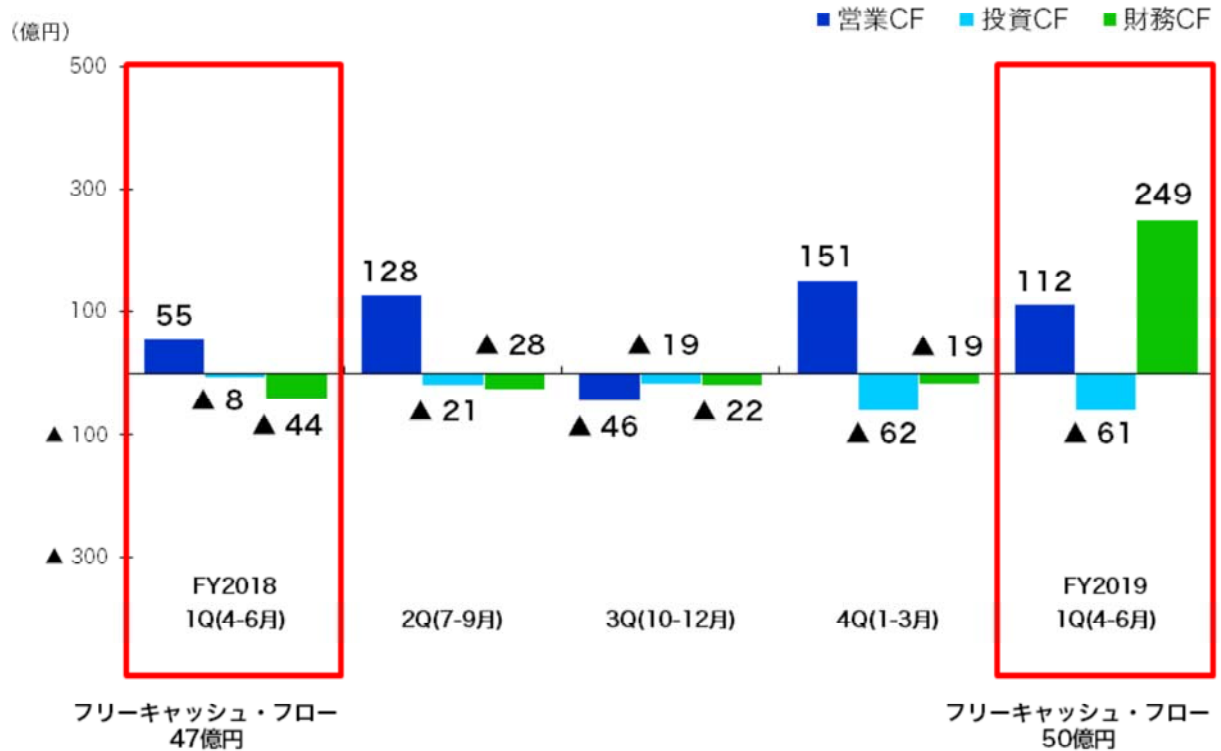
●負債および純資産の部の増減理由

・負債は、2,346億となり、前期比396億円増加（+20.3%）しました
 転換社債型新株予約権付社債の発行などによります（増加）

・純資産は、1,682億円となり、前期比26億円減少（▲1.5%）しました
 親会社株主に帰属する四半期純利益を計上するも、配当金の支払いやその他
 有価証券評価差額金の減少などによります（減少）

●上記の結果により、自己資本比率は41.8%となりました

連結キャッシュ・フロー



当期（FY2019 1Q）の連結キャッシュの概況

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、112億円の収入でした
売上債権の減少、税金等調整前四半期純利益などの収入項目が、法人税等の支払い、たな卸資産の増加などの支出項目を上回ったためです
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、61億円の支出でした
→研究開発設備等の有形固定資産を取得したことなどによります
- 上記の結果として、フリーキャッシュ・フロー（FCF）は50億円となりました
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、249億円の収入（前年同期 44億円の支出）
配当金の支払いの一方で、転換社債型新株予約権付社債の発行などを行いました

FY2019 業績予想

*セグメント別営業利益予想：5億円刻みの「約」表記

(億円)	FY2018 通期実績	FY2019 (予想)					
		上期		下期		通期	
		5月発表	7月発表	5月発表	7月発表	5月発表	7月発表
売上高	3,393	1,760	1,830	2,080	2,010	3,840	3,840
SE	2,271	1,155	1,250	1,445	1,350	2,600	2,600
GA	534	270	260	290	300	560	560
FT	452	250	240	250	260	500	500
PE	121	70	70	70	70	140	140
その他	13	15	10	25	30	40	40
営業利益	427	210	230	320	300	530	530
営業利益率	12.6%	11.9%	12.6%	15.4%	14.9%	13.8%	13.8%
SE	363	175*	200*	275*	250*	450*	450*
GA	30	15*	15*	25*	25*	40*	40*
FT	45	30*	30*	25*	25*	55*	55*
PE	10	5*	5*	5*	5*	10*	10*
その他	▲22	▲15*	▲20*	▲10*	▲5*	▲25*	▲25*
経常利益	413	200	230	310	280	510	510
親会社株主に帰属する 当期純利益	285	135	150	235	220	370	370

注) 想定為替レート>> 1USドル=105円、1ユーロ=130円 期末配当予想>> 155円

- FY2019は、6期連続の増収増益達成に向け、5月発表からの通期予想に変更はありません。SEを筆頭に好調な市場環境を受け、さらなる高みを目指し、各事業とも、成長に向けた施策を実行してまいります

最近の取り組み

HD

- ・平成30年度全国発明表彰「発明賞」を受賞
～ 大面積レジスト塗布装置における異物検出方法の発明～
- ・インクジェット式鋭剤印刷機、最新モデルを開発
- ・生殖補助医療におけるイメージングシステムの研究開発に着手

GA

- ・EFI社とデジタルフロントエンドでの連携を開始

FT

- ・反射防止膜・指紋付着防止膜のコーティング市場に参入

PE

- ・次世代の回路パターン形成に対応した直接描画装置（LANZAN）を発売

詳細は、当社ホームページ上の「グループニュース」を参照願います

* 「グループニュース」 : <http://www.screen.co.jp/press/index.html>

ESG関連の取り組み



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

当社グループは、国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」を当社の企業理念にも通ずる目標だと捉えています。そのため、17のゴールのうち特に以下の6つの重点課題に積極的に取り組み、全人類が平和で豊かに暮らせる社会を目指し、地球規模で持続的に成長することに貢献します。

>>6つの重点課題



ESG系インデックス銘柄に選定

当社は、FTSE4Goodインデックスシリーズ（2004年から連続）、FTSE Blossom Japan Index（2017年から連続）、SNAMサステナビリティ・インデックス（2018年・初）の構成銘柄として組み入れられています。



FTSE4Good



FTSE Blossom Japan



Member of SNAM Sustainability Index 2018

■ご参考>> 主要数値の変遷

(億円)	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019 (予想)
売上高	2,376	2,596	3,002	3,393	3,840
営業利益	171	235	337	427	530
営業利益率(%)	7.2	9.1	11.2	12.6	13.8
総資産	2,495	2,700	3,006	3,658	—
自己資本	1,108	1,196	1,428	1,708	—
自己資本比率(%)	44.4	44.3	47.5	46.7	—
ROE(%)	12.3	16.3	18.4	18.2	—
減価償却費	48	50	53	57	85
設備投資額	66	63	82	144	310
研究開発費	139	151	177	208	250
EPS(円)	255.35	396.75	511.96	608.62	793.09

SCREEN